



上／本場でSWORD工法の技術開発をしていた際に製作した立川駅改良工事の模型。現在は本社1階に展示してある。
下／現場に常駐した仙台駅東口の駅ビル新築工事で使用した750tクローラークレーンの前で発注者を交えての集合写真。

「現在、工事を行っている川崎駅や飯田橋駅改良工事などの計画支援や、図面審査、新橋駅や千葉駅の難易度の高い工事の施工検討会を取

だ」と推してくださったんです」
出向先の東京工務所は約六〇〇名が所属する大組織で、配属された建築計画課（現・建築計画室）は建築部門を掌握する主幹部署。鉄

道建設からの出向も初めてだったという。
「これまで、女性の出向社員はおらず次は現場にという話もあったのですが、入社当時からお世話になっていた上司が『高橋は現場ではなく、もう少しいろいろなことを勉強するべきだ』と推してくださったんです」

出向先の東京工務所は約六〇〇名が所属する大組織で、配属された建築計画課（現・建築計画室）は建築部門を掌握する主幹部署。鉄道建設からの出向も初めてだったという。
「これまで、女性の出向社員はおらず次は現場にという話もあったのですが、入社当時からお世話になっていた上司が『高橋は現場ではなく、もう少しいろいろなことを勉強するべきだ』と推してくださったんです」

「各駅の改良工事は一つとして同じ施工方法はなく、『駅って面白い』と感じどんどん仕事は楽しくなっていました」
数々の駅開発工事の施工計画や関連する技術開発を経験し専門知識を蓄えていった高橋は、二〇一〇年、東日本旅客鉄道（株）へ出向する。

「各駅の改良工事は一つとして同じ施工方法はなく、『駅って面白い』と感じどんどん仕事は楽しくなっていました」
数々の駅開発工事の施工計画や関連する技術開発を経験し専門知識を蓄えていった高橋は、二〇一〇年、東日本旅客鉄道（株）へ出向する。

「各駅の改良工事は一つとして同じ施工方法はなく、『駅って面白い』と感じどんどん仕事は楽しくなっていました」
数々の駅開発工事の施工計画や関連する技術開発を経験し専門知識を蓄えていった高橋は、二〇一〇年、東日本旅客鉄道（株）へ出向する。

念願かなって就いた職業だったが、仕事をしていくうちに違和感が生まれてくる。
「まちづくり条例に携わっていたのですが、目に見えるかたちでないので手応えがなく、もどかしさを感じていました。もっと成果を実感できる仕事をしたいと思い、一度リセットしようと思いついて退職しました」
念願かなって就いた職業だったが、仕事をしていくうちに違和感が生まれてくる。
「まちづくり条例に携わっていたのですが、目に見えるかたちでないので手応えがなく、もどかしさを感じていました。もっと成果を実感できる仕事をしたいと思い、一度リセットしようと思いついて退職しました」

まちづくりからものづくりの現場へ

高橋は、中学生のときにあった自宅の建替え工事で、図面を眺めるのが楽しくて建築に興味をもった。大学で建築について学ぼうと決めた高橋は工学部に入学する。
「建築に関する勉強をするなかでまちづくり

まちづくりの仕事に満足することなく、転職をして建設業界へと歩みを進めた今号の小町。施工計画の立案から技術開発、出向経験や現場管理と様々な業務に携わり、その多様な経験を活かして、今は広報部で活躍している。

「まちづくり条例に携わっていたのですが、目に見えるかたちでないので手応えがなく、もどかしさを感じていました。もっと成果を実感できる仕事をしたいと思い、一度リセットしようと思いついて退職しました」
念願かなって就いた職業だったが、仕事をしていくうちに違和感が生まれてくる。
「まちづくり条例に携わっていたのですが、目に見えるかたちでないので手応えがなく、もどかしさを感じていました。もっと成果を実感できる仕事をしたいと思い、一度リセットしようと思いついて退職しました」

駅舎工事のダイナミズムに魅せられて

学んできた知識を活かし、もっとものづくりをしたいという思いが強くなった高橋は、独学でCADの操作を身に付け、一級建築士を取得し、二〇〇六年に鉄建建設（株）に入社する。

輝け！ けんせつ小町

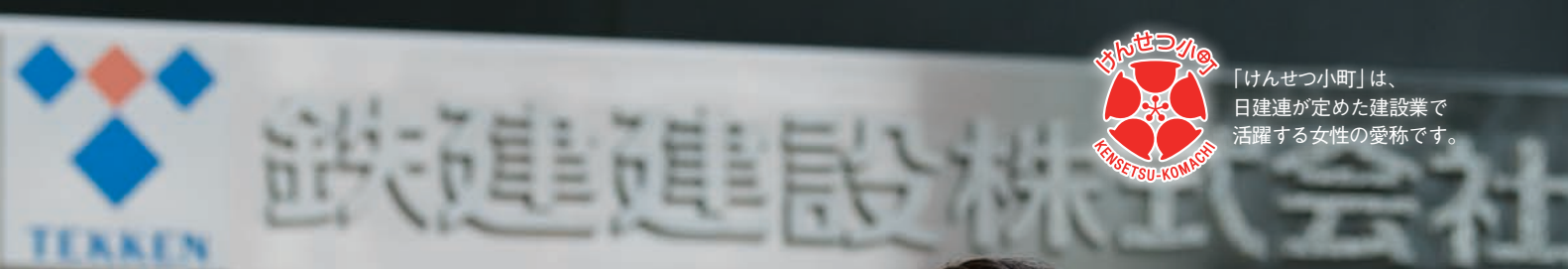
広報

高橋ふさ子

鉄建建設株式会社 経営戦略室 広報部



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。



my Beginning

私が建設業界に入った理由

目に見えるものをつくっていく

my style

年に10回は山に行きます。田舎育ちなので、昔は山菜採りでしたが、今は登山になりました。会社のクラブに所属しておりみんなで登ることが多いのですが、1人で寡黙に登ることも好きです(笑)。今でも出向時代にお世話になった方々と登ったりもします。どんな遠くに見える山でも一步一步しっかり歩けば登頂できるという達成感がたまりません。



台湾にある玉山(旧称ニイタカヤマ)に登頂した瞬間。標高は3,952mあり、富士山よりも高い。



右/部下の下西(右)と一緒に取材を行う。下西はトンネル工事に従事してきた土木技術者だ。
上/今年の8月に開催された「けんせつ小町活躍現場見学会」では、子どもたちに現場の魅力を伝えた高橋。
下/広報部は3人で構成されている。少数精鋭だからこそコミュニケーションは円滑だ。



my Growing

私が建設業界で学んだこと

多様な経験が自分の幅を広げる

りまとめたり、技術開発を担当しました」
二年の予定だった出向期間を一年延長して三年間、発注者側の視点で駅工事について考えを巡らせた。出向を終えた高橋は、仙台駅東口の駅ビル新築工事で初めて現場に常駐し計画主任となった。地元ということもあり、思い入れの強い仕事になったと高橋は笑顔で回想する。

会社の中核へ留学

三年の現場勤務を終えた高橋は、二〇一六年十月より新天地へと向かう。
「社内留学という制度で、本社経営戦略室の経営企画部へ配属となりました。ここで約五カ月間、経営会議資料の作成などに携わった後、今所属している広報部へ異動となりました」
社内留学制度について上司の橋本謙広部長はこう話す。

「活躍している中堅社員を対象に、三カ月単位で経営企画部に入ってもらい仕事の幅や視野を広げるのが社内留学です。任期を終えると元の職場へ戻りますが、高橋の働きぶりを見てぜひ広報部にと建築本部にお願いしました」

今から三年前に新設された広報部は、社長の肝入りで技術職も配属されており、様々な経歴のメンバーで構成されている。高橋はここで社内報やホームページ、CSR報告書といった会社の顔となる広報活動を任された。

「今までとは全く異なる分野ですが戸惑いは

一切ありませんでした。その一方で、現場の第一線から離れると技術的なことを忘れてしまいうので不安があったことも事実です」

高橋は、現場の最前線から会社を俯瞰する立場になり、新たな知見の習得に励む。

「自分らしさ」と「鉄建らしさ」

様々な部署を経て広報担当となった高橋は、社内でもロールモデルとして注目される存在だ。「ある程度働く女性とか関係なく誰でも自分らしさというか、会社にとっての自分の存在価値を考えます。私らしさは、いろいろな視点に立ち、幅広い業務をしてきたこと。そういうことを活かして働くことは私にしかできない」
広報部では今までの積み重ねを活かしながら仕事ができていると言う。

「様々な仕事をしてきたからこそ、うちの良さは質実剛健と分かってきました。その「鉄建らしさ」を社内でも共通認識として統一し、社外には企業文化として伝えるように意識しています。様々な経験が今の私をつくっていますね。だから『やればできる』と思ったりもします」
こう話す高橋からは、これまでのキャリアに裏付けられた自信が感じとれた。

潜在的な課題を解決する

入社してくる女性は年々多くなってきたが、その意識の違いに驚かされると言う。



「高橋は自分の意見をはっきり言ってくれるので、何を考えているのかわかり安心できます。今後経験を積んでいくことで更に自信を持って力強く発言していくでしょう。実は経営戦略室に技術職の女性が来るのは初めて。期待が大きいだけに予定を延長して未だに引き抜いたままです」(橋本部長(左))

profile



たかはし・ふさこ ● 1975(昭和50)年、宮城県生まれ。大学院卒業後にシンクタンク会社に入社するが退職。一級建築士を取得し、2006(平成18)年に鉄建建設(株)に入社する。建築技術部、生産計画部を経て、東日本旅客鉄道(株)へ出向。3年間の出向後、計画主任として仙台駅前再開発現場に従事する。2017(平成29)年より、数々の経験が評価され経営戦略室広報部へ配属となり、今に至る。

「私が入社したころは男性たちのなかで成果をあげようと必死でしたが、今の新入社員たちは自然体であり男女を意識せず働いています。ただ、女性は体面や時間的制約で現場の第一線に留まることが難しいときがあります。そのとき柔軟な働き方をしつつ、女性の特長を活かせる新しい仕事があってもいいと思うんです。まだ漠然としています。現場を離れても活躍できる場所をつくってあげたいので、まずいろいろな人に話を聞くことから始めています」

今まで見過ごされていた課題に気付き、新しい女性の役割を生み出そうと思考を巡らす高橋。様々な視点に立ったからこそ生まれる発想だ。「やればできる」と笑顔で話す高橋は、今まで培ってきた経験を武器に、この先も新しいことにどんどん挑んでいくだろう。どんな場所、どんな環境でも活躍していくに違いない。

my **Growing** 私が建設業界で学んだこと